



名古屋東海ワイズメンズクラブ

会長主題 「ジャンプ！」

国際会長主題 「命の川を信じよう」	Jacob Kristensen (デンマーク)
アジア太平洋地域会長主題 「変化をもたらそう」	David Lua (シンガポール)
西日本区理事主題 「Let's do it now!」	吉田 裕和 (京都トウビー)
中部部長主題 「知らせよう! ワイズの奉仕活動を」	早川 政人 (名古屋グランパス)
名古屋東海クラブ標語 『限りなき熱情を奉仕に』	

今月の聖句

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。

(ヨハネによる福音書1章1節～5節)

強調月間 評価と引継ぎ

6月例会等ご案内

◎6月第1例会

日程：6月10日(木) 18:45～

担当：池野輝昭君

会場：名古屋YMCA(池下)

また、食事はありません(ご注意下さい)

開会宣言・点鐘：太田全哉会長

五つの信条：山田英次君 【但し唱和なし】

開会祈祷：浅野猛雄君

卓話：『コロナ禍での挑戦

刈谷保育園開所に向けて』

講師：橋本啓氏 (名古屋YMCAスタッフ)

諸連絡

閉会宣言・点鐘：太田全哉会長

◎6月第2例会

日程：6月17日(木) 19:00～

会場：名古屋YMCA

◎第24回西日本区大会

日程：6月5日(土)～6日(日)

会場：ウェスティン都ホテル京都

◎例会は新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合があります。会長からのメールにご注意下さい。

東海ワイズ五つの信条

- 一、自分を愛するように隣人を愛そう
- 二、青少年のためにYMCAにつくそう
- 三、世界的視野を持って国際親善を果たそう
- 四、義務を果たしてこそ 権利が生じることを悟ろう
- 五、会合には出席第一 社会には奉仕第一を旨としよう

【出席率】 5月末-在籍者 20名

(内広義会員2名)

出席者 14名(第1例会のみ)

出席率 第2例会中止の為算定不能

【特別ファンド】

5月ファンド 12,542円

鈴木孝君慶弔金ファンド 20,000円

合計 1,430,986円

5月第1例会報告**『プロ野球とアマチュア野球』****講師：片貝義明氏**

本日の講師は元中日ドラゴンズの選手で、現在は株式会社矢場とんの人事部長の片貝氏。

まずは星野監督から高木監督への交代劇の話から始まり片貝流ドラゴンズの分析を伺った。ドラゴンズ上昇には①大砲の獲得②グラウンドサイズの縮小③球団をどう育てていくのかとう将来ビジョン④強引に引っ張っていく監督が必要とのことであった。



星野、高木、落合の3人の監督については、星野監督は政治家タイプで面倒見がよかった。高木監督は職人肌で、なんでも自分の世界でやる人だった。落合監督はとにかく細かく分析をすることに徹していて、我慢強い人であったとのこと。その他色々興味深いお話があったが、記録にはしにくいところもあり詳細は割愛させて頂く。



現在の矢場とんの野球チーム「ブースターズ」の指導者としても野球に関わっておられる片貝氏は、本当に野球を愛しておられる野球人とお見受けした。『がんばれドラゴンズ・がんばれブースターズ』である。 (松本)

【諸連絡・協議事項】

1. コロナ禍の下、去年は中止となった市内中学生バスケットボール大会であるが、今年はなんとか7月26日～8月5日の期間で開催できないか関係先生方と協議を進めているところである。開催できても、例年のようなトーナメント方式の試合ではなく、各校1試合だけの交流戦形式になる可能性が高い。開催に際しては感染対策として各会場に多数の消毒剤を配置しておく必要があり、「その購入資金について、東海クラブから資金援助をしたい」との提案が長谷川君からあった。協議の結果基本的に提案を了解し、支援金額等計画がまとまったら、クラブメンバーに配信の上、最終承認を得ることとした。
2. 会長より目下のコロナ感染状況に鑑み、5月第2例会を中止したいとの提案があり、提案を承認した。なお、6月第1例会は予定通り開催することを確認した。

【出席者】 浅野、大島、太田、木村、柴田、鈴木孝、谷口、中江、橋爪、長谷川、松本、八木、山村、鷺尾



「1977年5月14日の出来事」

浅野猛雄

1977年この年は東海クラブがチャーターし10周年の記念すべき年でした。メインの事業は東海市に YMCA が出来た事も有り「伸び行く名古屋に走る YMCA 車」と称して、クラブで積み立てたファンドの中から YMCA にワゴン車を一台寄贈致しました。

また、上記の5月14日には家族ぐるみ裸の会が岡崎市の桑谷山荘で開催され、多くのメンバーが家族と共に参加をしていました。夕食後、皆でテレビで放映されていた中日対巨人戦を観戦していました。もちろん、皆、熱狂的な中日ファンばかりです。



試合は7回の裏中日の攻撃です。ツーアウト満塁相手ピッチャーは西本、対する中日のバッターは元大リーガーのウィーラー・デービスです。打球はライトに飛び野手がクッションボールをもたつく間に一気に三星を回りホームインです。その速かったこと、三星を回る頃には一塁ランナーを追い抜くかと思う程でした。満塁ランニングホームランです。大歓声があがったのは言うまでもありません。

現在、その時に居合わせたメンバーは何人残っているのでしょうか。

5月の卓話が元中日の片貝さんにちなんで野球にまつわる話でした。

(一部、中日新聞夕刊に連載の元中日の大島康徳さん「この道」から抜粋)

いのちの電話とワイズと長井潤さん

八木武志

4月の例会で、元名古屋 YMCA 総主事である度「愛知いのちの電話」の事務局長に就任された加藤明宏氏の卓話を聴いた。そのレジメに愛知いのちの電話の創設や運営に貢献された名古屋 YMCA のスタッフの方々の名前があった。木本精之助元名古屋 YMCA 総主事は現在名古屋ワイズメンズクラブに所属されている。笠井康助主事は元東海クラブのメンバーであったが、いまは関東の川越にお住まいである。長井潤主事は元名古屋クラブのメンバーであったが膵臓癌により若くして亡くなられた。この三人の方は名古屋地区のワイズメンズクラブの活動にも大きな働きをされた。

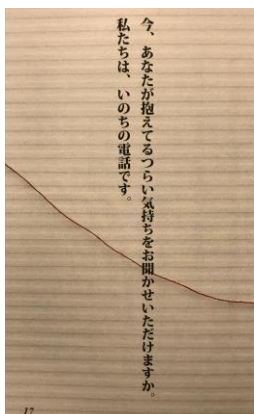


長井さんは多彩な才能の持ち主で特にギターの腕前は抜群で、クラシックからラテンまで何でもござれであった。私はテレビで「鬼平犯科帳」を見るたびにラストテーマの「インスピレーション」(ジブシーキングス)を聴き、長井さんを思いだしている。京都 YMCA のリーダーから奈良 YMCA、名古屋 YMCA に赴任し、会員活動を担当し、時には剣道の胴着姿で小学生の剣道の指導する姿、また、好奇心がすごく、名古屋城の火縄銃の鉄砲隊に参加された。かつてこの話を東海クラブで卓話の講師をして頂いたこともある。愛知いのちの電話ではチャリティコンサートの企画・

広報に尽力され、私も何度かお誘いを受け、コンサートを聴きに名古屋中央教会に行ったことを思い出します。

ワイズメンとしては名古屋クラブの中心メンバーとして、また西日本区のクリスチャニティー委員会の委員長としてワイズメンにキリスト教の理解(信仰を押し付けるのではなく)、YMCAの目指す「みんながひとつとなる」ことを呼びかけられた。

いのちの電話は数多くのボランティアによって支えられているが、財政は寄付金と賛助会費による収入のみである。長井さんのことを想いながら私も一人の賛助会員として少しでも支えることができると願っている。



もう40年も前の話ですが

松本 勝

浅野さんの記事を見て思い出した光景がありました。東海クラブが寄贈されたワゴン車と、もう一台南山号を借りて1997年の夏、小学生野外活動クラブのメンバーを引き連れ、福井県今庄町の廃校になった小学校でキャンプを行いました。ある日、東海号と南山号にメンバーを乗せて山間のダムに出かける山中で、誰もいないのを幸いに、メンバー達が車の屋根の上に設置してあったスピーカーを利用してキャンプソングを2台で大合唱していた光景でした。

今庄キャンプを2年続けて行い、1979年には名古屋YMCAがキャンプ場開設の為に取得した日和田高原での初めてのキャンプに挑戦しました。それはまさに挑戦でした。その頃の日和田キャンプ場は土地だけの原野で中に入る込む道すらない状態でした。小学生野外活動クラブのメンバー・リーダー120名を受け入れるスペースを開拓し、生活出来る状態に整備する必要がありました。リーダーと共に開拓と整備のワークキャンプを7月末に4泊5日で行いました。共に汗を流してくれたリーダー達の姿をみて、人間の力は偉大だと実感しました。



8月にメンバーを連れての本番が始まりました。4・6年生のグループが先陣で4泊5日、3・5年生のグループは1日遅れの3泊4日でした。初日バスを降りて、暫くすると激しい雷雨に襲われ、全員ブルーシートの下で、じっと雷雨が去るのを待ったものでした。無事テントを張り、食事を終えた頃再び激しい雨になり、その中を当時キャンプ委員であった阿部美男氏、小谷治郎氏、高橋正光氏が雨中を訪問して下さり、メンバーやリーダーの様子を覗いていかれました。天候は翌日には回復し、初めての日和田キャンプを無事終えることができました。

ワークキャンプ中には名鉄キャンプ場のスタッフにお風呂のお誘いを受け感謝でした。本番ではグループごとのややこしい食材を的確に調達・配分して下さった嶽見商店のご夫婦にもお世話になりました。